

【短報】九州本土におけるオオヒゲカタアリヅカムシの初記録

オオヒゲカタアリヅカムシ *Tmesiphorus princeps* Sharp, 1883 は Sharp (1883) によって新潟県二居から記載された好蟻性アリヅカムシ亜科の一種である。本種は主に、ヤマアリ属やオオアリ属、ケアリ属から採集される(丸山ほか, 2013)。また, Inoue *et al.*, (2019) ではサムライアリの巣から採集されたことを報告している。このように宿主範囲を広く持つことが特徴のアリヅカムシである。本種はヒゲカタアリヅカムシ *Tmesiphorus crassicornis* Sharp, 1883 とよく似るが, 全身の被毛が長いこと, 触角第9節が縦長であること, 腹部背板第5節の隆起線が短いことで区別できる。

本種は現在までに, 北海道, 本州そして対馬から分布が確認されており(柴田ほか, 2013; Inoue *et al.*, 2019), 決して珍しい種というわけではない。しかし, なぜかこれまで九州からの記録はなく, 唯一が先ほど述べた対馬からの記録であった。この度, 筆者の一人である恵が九州本土鹿児島県内においてヒゲナガアメイロケアリ *Lasius meridionalis* Bondroit,

1920 (以下, LM) の巣からオオヒゲカタアリヅカムシを採集したため, 以下の通り報告する。

1♂, 1♀, 鹿児島県鹿児島市吉野町菖蒲谷, 19. VIII. 2018, K. Megumi leg.; 1♂, 同データ, 但し 29. IV. 2019, [LM]; 1♂, 同データ, 但し 17. V. 2019, [LM]。いずれも九大博物館に保管。

これらの個体は鹿児島市内の住宅街にある小さな神社内の切り株や石の下に営巣していた LM の巣より採集された。

最後となったが, 本報告にあたり, アリの同定に快く応じてくださった久未遊氏(九州大学)に厚く御礼申し上げる。



図1. 鹿児島県産オオヒゲカタアリヅカムシ♂。

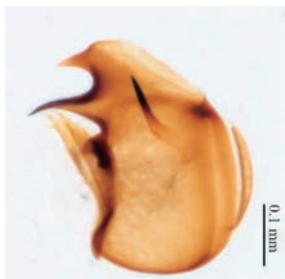


図2. オオヒゲカタアリヅカムシの雄交尾器。

引用文献

- Inoue, S., Maruyama, M. & Nomura, S., 2019. Revision of the genus *Tmesiphorus* LeConte, 1849 (Coleoptera: Staphylinidae: Pselaphinae) from Japan. *Zootaxa*, 4646 (1): 067–086.
- 丸山宗利・小松 貴・工藤誠也・島田 拓・木野村恭一, 2013. アリの巣の生きもの図鑑. 東海大学出版部, 東京, 208 pp.
- Sharp, D., 1883. Revision of the Pselaphidae of Japan. *Transactions of the Entomological Society of London*, 8, 291–332.
- 柴田泰利・丸山宗利・保科英人・岸本年郎・直海俊一郎・野村周平・Volker Puthz・島田 孝・渡辺泰明・山本周平, 2013. 日本産ハネカクシ科総目録(昆虫綱: 甲虫目). 九州大学総合研究博物館研究報告, (11): 69–218.

(井上翔太 819-0395 福岡市西区元岡 744

ウエスト 5 号館 523 号室 九州大学院昆虫学教室)

(恵 海斗 892-0871 鹿児島市吉野町 4216-1)

【短報】山口県におけるヤギマルケシゲンゴロウの初記録

ヤギマルケシゲンゴロウ *Hydrovatus yagii* Kitayama *et al.*, 1993 (図1) は, 体長 1.7 ~ 1.8 mm 程度の幅広い卵型のゲンゴロウで, 小型種で構成されるマルケシゲンゴロウ属の中でも特に微小な種である(森・北山, 2007)。

日本における記録は, 静岡県, 三重県, 奈良県, 和歌山県, 京都府, 兵庫県, 広島県, 福岡県, 鹿児島県, 沖縄県(Kitayama *et al.*, 1993; 森・北山, 2001, 2005; 石田・矢崎, 2005; 静岡県, 2007; 秋田, 2008; 的場, 2010; 北野ほか, 2011; 中島・井上, 2012; 坂本, 2012; 森, 2017) の 10 府県と少なく, それぞれの地域でも産地は局地的である。筆者はこれまで記録の無いと思われる山口県において初めて採集したので報告する。

7 exs., 山口県宇部市船木, 28. IV. 2019. 筆者採集・保管, 渡部晃平同定。

本種を確認した環境は, 丘陵地の樹林内にある溜池で, 水源は沢水と天水のみの比較的貧栄養な環境である。周囲の樹林は水面まで枝葉を伸ばす樹木はごく一部で, 全体的には明るく開放的であ



図1. ヤギマルケシゲンゴロウ。



図2. 生息地の環境。

る。水際の傾斜は緩やかで、湿地状の岸边にはモウセンゴケが生育し、浅瀬にはイ(イグサ)が群落を形成している。また、開放水面には広くジュンサイが生育している(図2)。

本種はイ群落の根際を攪拌しデトリタスごとと掬いあげることによって得られた。同所では同属のオオマルケシゲンゴロウ *H. bonvouloiri* Sharp, 1882, マルケシゲンゴロウ *H. subtilis* Sharp, 1882 のほか、キボシチビコツブゲンゴロウ *Neohydrocoptus bivittis* (Motschulsky, 1859), ムモンチビコツブゲンゴロウ *Neohydrocoptus* sp., ルイスツブゲンゴロウ *Laccophilus lewisius* Sharp, 1873 などの全国的にも希少なゲンゴロウ類が複数確認された。この採集状況は、出現種はやや異なるものの、森・北山(2007)の「丘陵地の大きな池の浅瀬で植物の豊富な水域から、多くのマルケシゲンゴロウやコマルケシゲンゴロウ、ムツボシツヤコツブゲンゴロウなどの小型種と共に得られ」という記述に符合している。山口県内には植物群落の発達する溜池が未だ比較的多く残っているものの、現在本種が確認されているのは今回調査した溜池のみである。全国的にも貴重な記録と考えられるため、本種の継続した生息状況調査と、新たな生息地の発見に努めたいと考えている。

最後に、本種の同定にご協力いただいた石川県ふれあい昆虫館の渡部晃平氏、水生植物についてご教示いただいた株式会社ソラトリの佐伯伸正氏、貴重な文献を提供していただいた熊本県博物館ネットワークセンターの中園洋行氏、文献の収集及び報文作成の助言をしていただいた環境科学大阪株式会社の森正人氏に厚くお礼を申し上げる。

引用文献

秋田勝己, 2008. 志摩市大王町船越池のゲンゴロウ類と捕食性

- 外来動物について. 甲虫ニュース, (162): 31-34.
 石田和男・矢崎充彦, 2005. 大王町船越池の水生半翅類, 水生甲虫類. ひらくら, 49 (2): 17-24.
 Kitayama, A., M. Mori, & E. Matsushi, 1993. A new species of *Hydrovatus* (Coleoptera: Dytiscidae) from Japan. AKITU, (137): 1-4.
 北野 忠・唐真盛人・水谷 晃・崎原 健・河野裕美, 2011. 西表島研究 2010, 西表島におけるゲンゴロウ類の生息状況. 東海大学沖縄地域研究センター所報, 37-43.
 的場 績, 2010. 和歌山県産甲虫類分布資料 23. KINOKUNI, (78): 24.
 森 正人・北山 昭, 2001. 深泥池の水生肉食垂目 *Hydradephaga*. ねじればね, (96): 1-9.
 森 正人・北山 昭, 2007. 改訂版図説日本のゲンゴロウ. 231 pp. 文一総合出版.
 森 正人, 2017. ヤギマルケシゲンゴロウ. 大切にしたい奈良県の野生動物植物 - 奈良県版レッドデータブック 2016 改訂版 -. p. 225. 奈良県.
 中島 淳・井上大輔, 2012. 福岡県におけるヤギマルケシゲンゴロウの採集記録. ホシザキグリーン財団研究報告, (15): 182.
 坂本 充, 2012. ヤギマルケシゲンゴロウ. 広島県の絶滅のおそれのある野生生物 (第3版) - レッドデータブックひろしま 2011-. p. 142. 広島県.
 静岡県, 2005. 静岡県野生生物目録 - 昆虫類 -. 112pp.

(相本篤志 747-0806 防府市石が口3-10-10-2-B202)

【短報】マメアサガオ白さび病菌菌癭よりアカアシヒゲナガゾウムシが羽化脱出

ヒゲナガゾウムシ科 Anthribidae の多くは腐朽の進んだ枯木やキノコ類に発生するが、ワタミヒゲナガゾウムシ属 *Araecerus* だけは種子や乾燥植物を摂食することが知られている(森本・沢田, 1998). アカアシヒゲナガゾウムシ *Araecerus trasalis* Sharp, 1891 は幼虫期にサイカチ *Gleditsia japonica* の成熟した種子内にて内部を摂食し、羽化することが報告されている(Takakura & Yamazaki, 2004) が、他のホストについての報告はない。筆者は神奈川県藤沢市においてマメアサガオ *Ipomoea lacunosa* の茎部に形成された菌癭より本種成虫が脱出する事例を確認したので報告する。

2019年2月1日、神奈川県藤沢市亀井野日本大学構内に群生していたマメアサガオに直径約20mmの瘤が1つ形成されているのを発見し、採集した(図1)。同月4日にも直径約10mmと5mmのものを採集し、それぞれプラスチック容器に入れ、25°C, LD 12:12の一定条件に保管した。瘤はいずれも乾燥していたため、保水などは行わなかった。

直径20mmの瘤について、一部を切断したところ、内部より甲虫の幼虫が得られた。その形状よりヒゲナガゾウムシ科の昆虫と推察され、そのまま瘤上に安置したが、再度内部に潜入することは